

京都「丹後・食の王国」構想



平成23年3月

京 都 府

<目 次>

	頁
<u>1 はじめに</u>	2
<u>2 構想の趣旨</u>	3
<u>3 構想が目指す地域の姿</u>	4
<u>4 現状と課題</u>	5
(1) 丹後地域の社会・経済状況	5
(2) 丹後地域のシーズや強み等	5
<u>5 構想推進の基本方向</u>	6
<u>6 構想実現に向けた推進方策</u>	6
(1) 重点施策	6
ア 丹後地域の特色ある食材の増強	7
イ 食関連ビジネスの推進（地域内共同運営組織の設立）	8
(ア) 地域外への丹後の食の売り込み促進	9
(イ) 食と観光との連携強化（観光客を増やすための取組）	10
(ウ) 地域の賑わいを形成する地域内消費の促進	11
ウ 食関連ビジネスの創出と拡大に向けた制度的支援と食の拠点づくり	12
(ア) 企業誘致・起業・産業集積促進のための各種支援制度の整備	12
(イ) 食の拠点づくり	13
(2) 施策の関連イメージ	14
<u>7 今後の取組スケジュール</u>	15

参考：添付資料

別紙 1 「丹後・食の王国構想プロジェクト推進協議会」委員名簿	17
別紙 2 協議会開催状況	18
別紙 3 第 1 回「丹後・食の王国構想プロジェクト推進協議会」での主な意見	19
別紙 4 第 2 回「丹後・食の王国構想プロジェクト推進協議会」での主な意見	20
別紙 5 第 3 回「丹後・食の王国構想プロジェクト推進協議会」での主な意見	21

1 はじめに

京都府では、「地域主権」の時代において、「それぞれの地域がそこに住む人にとって『みやこ』でなければならない」、即ち「地域を一番大切にする」という発想のもとに、地域振興を進めていくこととしています。

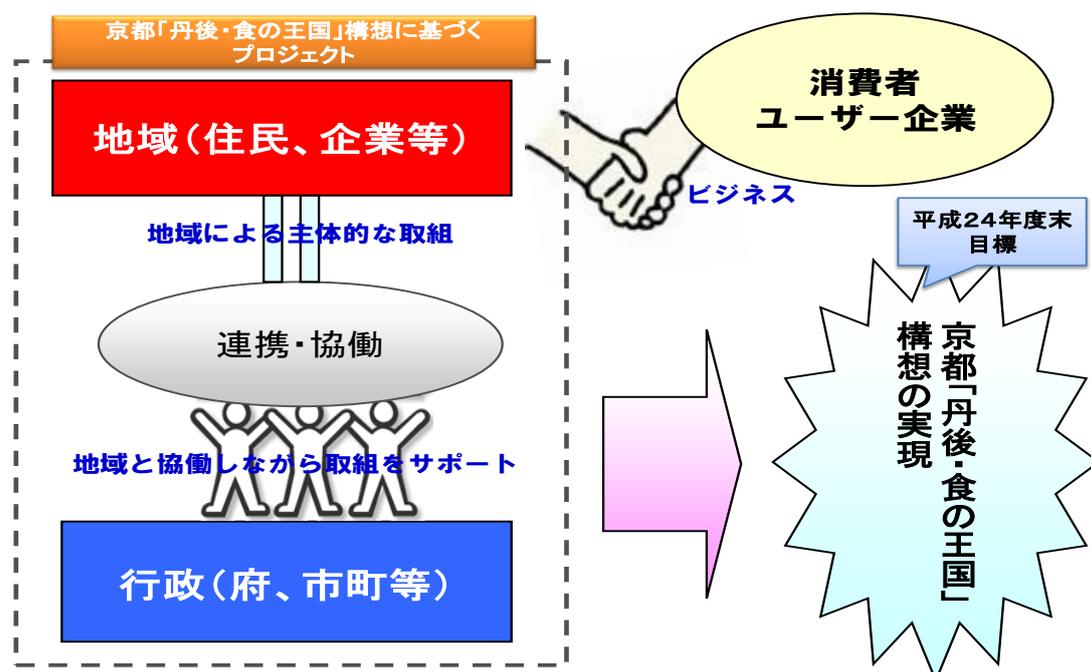
そのためには、地域の特色に応じた構想を描き、その実現に向けて地域の力を結集することによって、地域の活性化を図り、府民の皆様が自分たちの住んでいる地域に誇りを持っていただけるような地域づくりを推進することとしています。

丹後地域においては、近年、地場産業の不振や少子高齢化の進展等、厳しい経済・社会情勢におかれています。その一方、変化に富み、人々を魅了して止まない海・山・里や、これらが一体となって構成される景観、美しい季節の移り変わり、また、随所に息づく歴史と文化、温泉など、豊かな自然・文化資源に恵まれており、それらに育まれた豊かな「食材」にも恵まれています。

このような背景を踏まえ、京都「丹後・食の王国」構想は、京都府が地域ごとに策定する14の「みやこづくり地域戦略」の一つとして、丹後地域の持つ良質で豊かな地域資源である「食材」を活用し、食関連産業を、地域を牽引する新たな産業として育成するとともに、構想の実現に向けた取組の実施を通じて、地域住民の意欲向上に資し、所得向上に寄与することを目指しています。

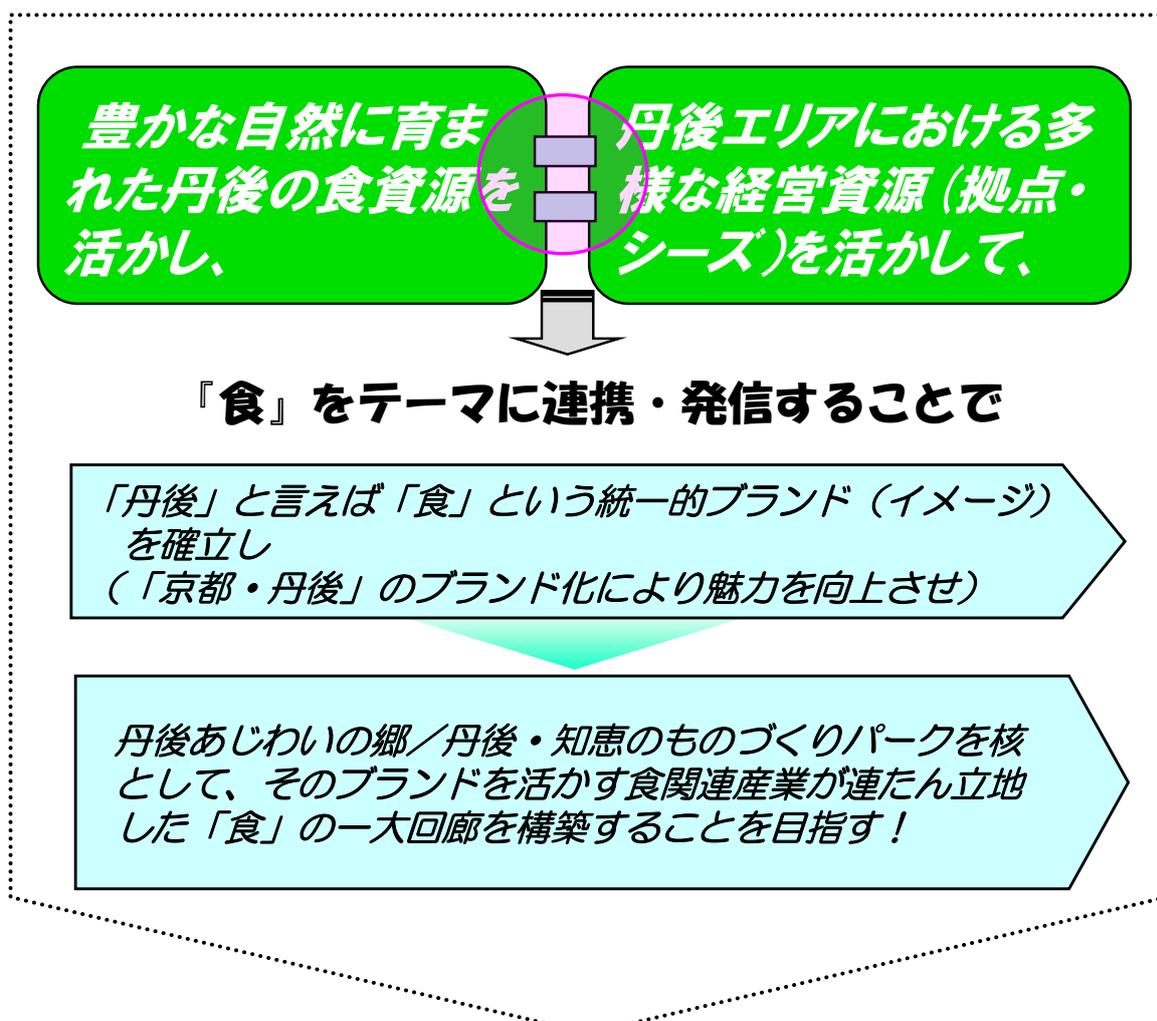
本構想は、「丹後・食の王国構想プロジェクト推進協議会」として幅広い分野の委員の議論を得て、とりまとめたものです。

そして、構想実現に向けた取組については、平成24年度末を構想実現の一定の目標として、地元市町、関係団体はもとより、府民参画・府民協働により進めていくこととします。



2 構想の趣旨

京都「丹後・食の王国」構想は、丹後地域の持つ良質で豊かな地域資源である「食」をテーマに、地域の食材を活用した新商品開発や販売促進、また、食関連産業の誘致・集積を図るとともに、丹後あじわいの郷や丹後・知恵のものづくりパークを核として、丹後の食の魅力を発信し、観光誘客を促進させることで、丹後の食の「ブランド化」と「高付加価値化」を図り、丹後地域一帯に食関連産業が連たん立地する一大回廊を構築することを目指します。



食関連産業を、地域を牽引
する新たな成長産業として
育成!

3 構想が目指す地域の姿

京都「丹後・食の王国」構想では、地域内外の人たちが、「食」をテーマに、

★生産 ★加工 ★流通 ★交流 ★連携 ★観光

の6つの絆で、食関連産業の「環」となつてつながることによって、丹後の「食」の素晴らしさが全国、ひいては世界に広まり、丹後地域全体の魅力が最大化される姿を目指しています。



京都「丹後・食の王国」の完成イメージ図

4 現状と課題

(1) 丹後地域の社会・経済状況

【人口特性】

- ▶府内でも人口減少、高齢化が著しい地域

【産業構造・特性】

- ▶1次・2次産業の比率が高い産業構造
- ▶主要産業は、農林水産業、織物業、機械金属業、観光業
- ▶全体として大企業の立地は少なく、中小事業者が大半

【産業動向】

- ▶かつては「丹後ちりめん」で織物業が盛んだったが生産量は年々減少傾向
- ▶地域全体の事業所数・従業者数、経営耕地面積は年々減少傾向
- ▶観光入込客数はここ数年頭打ち傾向
- ▶丹後地域外からの新規企業立地件数はここ5年で1件のみ

(2) 丹後地域のシーズや強み等

- ▶日本三景「天橋立」や世界ジオパークネットワーク加盟が認められた山陰海岸ジオパーク、伊根の舟屋など豊かな観光資源
- ▶ブランド京野菜や丹後コシヒカリ、梨などの高い品質を誇る農産物
- ▶間人ガニ、丹後とり貝、ブリ、イワガキなどの豊かな水産物
- ▶拠点となる施設（丹後あじわいの郷、丹後・知恵のものづくりパーク）の存在
- ▶織物業・機械金属業の集積
- ▶地域に根づいた金融機関（京都北都信用金庫等）の存在
- ▶京都舞鶴港の後背地
- ▶平成26年には、京都縦貫自動車道が大山崎町から京丹后市大宮町まで開通予定

等

5 構想推進の基本方向

京都「丹後・食の王国」構想においては、食関連産業を、丹後地域の主要産業である織物業、機械金属業、観光業等につぐ、地域経済を牽引する新たな成長産業として育成するため、以下の基本方向に基づき、取組を進めていくこととします。

■丹後地域の魅力ある「食」を磨き、6次産業化等により付加価値を高め、地域外に売り込むことにより外貨を獲得する。

※本構想における「外貨」とは、ビジネス・観光等を通じて、地域外から地域内に流入するお金のことを指す。

■観光と連携し、地域内での「食」の消費を拡大する。

■「京都・丹後」ブランドを活かした食関連産業の企業立地の推進等、地域内外からの投資を促進させる。

6 構想実現に向けた推進方策

(1) 重点施策

上記構想推進の基本方向に基づき、本構想においては、以下の重点施策を実施していくこととします。

ア 丹後地域の特色ある食材の増強

イ 食関連ビジネスの推進（地域内共同運営組織の設立）

(ア) 地域外への丹後の食の売り込み促進

(イ) 食と観光との連携強化（観光客を増やすための取組）

(ウ) 地域の賑わいを形成する地域内消費の促進

ウ 食関連ビジネスの創出と拡大に向けた制度的支援と食の拠点づくり

(ア) 企業誘致・起業・産業集積促進のための各種支援制度の整備

(イ) 食の拠点づくり

ア 丹後地域の特色ある食材の増強

■地域に根ざした丹後地域の特色ある食材について、消費者視点を重視した「売れる」産品開発とその生産体制の拡充を進め、丹後ならではの「食」の素材を磨きます。

施策の方向性

- ◆とびきりの品質確保と生産体制の強化
 - ▶こだわりの生産、選別と安心・安全の取組
 - ▶地域に根ざした食材の生産体制の強化
 - ▶新規就農支援等の担い手の確保・育成
- ◆新たな食材の開発と生産・供給システムの確立・普及
 - ▶サワラ、アカモク等の更なる有効活用
 - ▶高品質な「丹後茶」の生産体制拡充
 - ▶地域の特色ある畜産物（乳製品等）を活用した商品開発
 - ▶猪肉・鹿肉の安定供給のためのシステムづくり
 - ▶食に彩を添える林産物の商品化
- ◆高付加価値化を目指す取組
 - ▶環境にやさしい農業推進
 - ▶肉質の優れた和牛の育成
 - ▶漁民の森づくりや藻場造成など豊かな海づくり
 - ▶MSC認証水産物（ズワイガニ、アカガレイ）の更なるPRと販売促進
 - ▶高鮮度水産物の流通促進

イメージ図

